



したが、「国民は農にかえれ」「自給せよ」という翁の言葉に、とても感銘を受けました。収入を得るためではなく、自給自足のためであれば、機械で耕したり、肥料や農薬を投入したりする必要もない。自家採種や自然落下した種が自然の摂理に従って交配していく自然農法という考え方も、求道の末に行き着いたご縁でした。

鳴海 福岡正信さんの理念で作物を育てているのが、まほろばさんの自然農園なんですね。

鳴海 はい、ヒーリングの師と仰ぐ方の影響をもっとも受けた時期だと思えますし、やはり今もその延長線上を歩んでいるように思います。

さていただいた後、約十五年間にわたって全国を転々と放浪しながら求道生活を続けました。その中でオーリングテストと出会ったことは先に述べたとおりですが、同じ頃にもう一つ、その後の人生を決定づける出会いがありました。自然農法家・福岡正信さんとのご縁です。

宮下 やはり、「周平」には少し変わった人が多いのかもしれない。(笑)

福岡式自然農法の考え方は「人耕さずとも、作物自ら耕し、人肥施さずとも地自ら豊なり」というもので、現代農業の考え方は、あまりにもギャップがあります。

宮下 はい、そこが原点です。しかし、まほろば自然農園は、「0-1テスト農法」に行き着くのですね。それは、自然農法とも有機農法とも違うんです。堆肥や有機質肥料、天然ミネラル類を0-1テストし、必要と出れば投入する、不要なれば入れず。どんな肥料を使うか、比率は、量は、一々作物や土に訊きます。農法でも技術でもなく、その時その場で、その命に問いかける。自然に任すわけです。命は、すべての条件も環境も違うので、枠にはめず無為も有為も無く、混沌なんです。

創業当初、「農にかえる」ことだけを目指したのですが、農地を買いなお金がありませんでした。手元には何も無い、本当にゼロからの出発です。食養生を学んでいた家内と二人で、自転車漕いだり、ショルダーバッグを担いだりして自然食品の行商をしました。オーリングテストで市場から仕入れた、全国から取り寄せたりして、この方法を自分なりに0-1テストに改良・改善し、「内なる本能の声」に耳を傾けながら、お客様に安心して食べてもらえるものだけを仕入れました。

驚いたのは「有機」と表示されたものでもマイナス反応の出るものが、けっこうあったことです。農産物というのは、育った環境や遺伝的要素、作り手の想いなどが織り成す統一体であり、一大叙事詩だということ、0-1テストを通して学ぶことができました。

鳴海 私どもエヌ・ピエアが商品開発でお世話になっているHADO(波動)研究家の山梨浩利さんも「HADO(波動)数値の高低は自然界との共鳴度合いである」という考え方で、やはり育った環境

や遺伝的要素、作り手の想いなどが数値にあらわれる、と仰っています。

「身土不二」という考え方

鳴海 自然の摂理にかなった食べ方ということでは「身土不二」が思い浮かびます。移動手段が徒歩だけだった時代には「歩ける範囲で育った旬の作物」だけを摂取することが当たり前だったでしょうから、「からだ(身)と住んでいる場所(土)は一体である(不二)」という考え方は、からだに良い食の

基本と言えるかもしれませんね。

宮下 「一里四方で育ったものを食べよ」という教えですね。じつは、この考え方は「食」思想以前に、浄土教の経文に出ている言葉なんです。

身は「からだ」で同じなのですが、土は「浄土(=あの世)」の土だと書いてある。だから、「この身と浄土は、二つならず一体だ」という意味になります。「この肉体、この身のままで浄土はここにある」つまり、自然とか地球といった「この世」は、すでに桃源郷であり、極楽であり、

天国である、と。
鳴海 私たちの「核」となる魂は、浄土(=あの世)からこの世へ来て、再び元の世界へ還ると言われています。「身土不二」という言葉には、懐かしい故郷の記憶を呼び起こしてくるような、広遠で深い意味があったんですね。

宮下 まさに、「私たちのこころの核心は「情緒」である。情緒とは、懐かしさである」という岡潔先生の言葉とおおります。

「まほろば」という店名は、日本武尊の国歌の歌から採りました。彼が東征を果たして、苦勞の末に故郷の大和地方へと帰ってきた時に「ああ、懐かしい」という感慨を込めて詠った歌。その中に出てくる枕言葉に「まほろば」があるのです。

「やまとは 國のまほろば たたななく 青垣山ごもれる やまとしうるはし」
いちばん美しいこころの中の故郷を「まほろば」と表現しているんですね。

北海道恵庭市生まれ。札幌南高校在学中に数学者・岡潔の思想哲学に傾倒し、卒業後、奈良の薬師寺で修行の日々を送る。その後も全国を放浪しながら各地に師を訪ね求道履歴を続け、1983年に札幌で自然食品の店「まほろば」を創業。無農薬野菜を栽培する自然農園やセラミック工房、オーガニックカフェとパン工房も併設し、全国的にも草分け的存在として知られる。0-1テストを用いて数々の商品を世に送り出し、その集大成とも言える浄水器エリクサーは世界の権威を驚愕させた。現在、北海道余市郡仁木町に居を移し、営農に励む日々を送っている。著書に「倭詩」「續倭詩」がある。



宮下 周平さんプロフィール